

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23243055

研究課題名(和文) 地域の競争優位 国際比較産業史の中のヨーロッパと東アジア

研究課題名(英文) Competitive Advantage of Regions: Comparative Studies of Industries in Europe and East Asia

研究代表者

黒澤 隆文 (Kurosawa, Takafumi)

京都大学・経済学研究科(研究院)・教授

研究者番号：30294507

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 37,100,000円

研究成果の概要(和文)：産業と競争力一般につき以下の結論が得られた。産業は固有の時間と空間を持ち、単一の一般的・普遍的な理論的枠組みで全産業の競争力動態を説明することはできない。一般化・普遍化は、個々の産業について、多種の説明原理・理論的枠組みの妥当な組み合わせを特定する形で行う必要がある。「産業」は実体概念ではなく分析概念であり、これを踏まえて産業を構成する基本要素を確認することが必要である。多数の産業で、20世紀末頃に競争力の構図や決定要因が変化した。その多くは地球規模の価値連鎖の変化の帰結である。他方、そうした変化を含めても、長期(場合により世紀単位)にわたり特定地域が競争力を維持する例が多数見られる。

研究成果の概要(英文)：The general implication and conclusion of the project are three-fold. 1) Industry has its own time and space. A single universal theoretical framework to explain the dynamics of diverse industries does not exist. However, generalization and theorization are possible, as long as one aims at identification of appropriate combination of a variety of determinants and theoretical frameworks for each industry, by mobilizing an adequate periodization. 2) The "industry" is not a concept based on real entity, but an analytical category defined by the purpose of the analysis. Analysis of competitiveness requires systematic analysis of the nature of a given industry. 3) In many industries, the competitiveness and its key determinants changed at the end of 20th Century. The transformations in the global value chain were often attributable to it. However, even inclusive of such, there are many industries in which long-lasting competitive advantage of a specific region was observed.

研究分野：経済史

キーワード：産業史 経営史 競争力 国際比較 価値連鎖 技術移転 方法論 地域

1. 研究開始当初の背景

21世紀に入り、戦後日本産業の2つの柱ともいえる自動車産業と電機産業の間で、産業競争力の動態の相違が目立ってきた。後発国のキャッチアップにも直面する中で、産業の盛衰のパターンやその多様性、それらの要因への関心が高まり、多々の実証研究が行われた。しかし産業横断的な適用を意図した分析枠組み・理論に対しては批判も目立ち、産業間の体系的な比較が課題となっていた。

産業史研究は、日本の経済史・経営史研究が強みを持つ分野であり、その全盛期の蓄積を精査して隣接諸学の今日的な分析概念・成果と突き合わせ、同時に歴史分析固有の分析枠組み（例えば多種の時間軸を動員した因果関係の特定、プロセスの解明）を生かすような研究には、大きな可能性が残されている。

経営史の分野でこの問題に取り組んだ先行研究では、空間（地域）・企業・産業の3者の関係を整理しつつ、産業とその中で競争力の動態を長期の視点で分析する必要性が明らかとなった。また、世界の主要な競争主体を把握するためには、東アジア・北米・欧州の3つの地域の地域特性を踏まえた実証研究が必要である。しかし日本での研究史では、欧州の位置づけと、米と欧、および東アジアと欧州の研究交流が不足している。

研究戦略という観点でこれらを整理しなおすと、①日本からは「欧州優位産業（史）」が見えず、②日本の外からは「産業史研究での日本の優位」が見えない。よって、内外の研究水位差の克服、すなわち欧州企業・産業に関する認識の「輸入」による①の克服と、日本での産業史研究成果の「輸出」による②の克服が必要である。

2. 研究の目的

本研究は、欧州・東アジア両地域の歴史的諸条件が、戦後産業史の動態、特に競争力の動態と如何なる関係にあるのかを解明する。具体的には次の3点を課題とする。

(1) 欧州・東アジアの産業競争力に関する歴史的マッピング。複数の指標・観測時点で産業とその競争力の分布を把握し、地域内・地域間の産業類型と相互関係（移転と産業間の連関）を解明する。

(2) 産業史分析の体系化。技術・商品・市場・分業と付加価値連鎖の視点から産業論を整理し、新旧の分析概念を位置づけ、かつ歴史学固有の視点を活かして分析を行う。

(3) 欧州・東アジアという「地域」を分析単位に産業動態・競争力要因を解明する。日本での産業史研究の蓄積を活かしつつ、「欧州優位産業」の競争力要因に着目することで、日本の産業論（史）研究に伏在する死角を克服する。

また本研究は、以下5つの研究上の課題（①～⑤）と、2つの方法論的課題（⑥・⑦）に応えることも、目的としている。

①「地域」への着目と産業別の「地域」分析。

② 欧州を北米・東アジアと同等に分析。

③ 比較史・関係史的分析。

④ 産業論の方法論的体系化。

⑤ 歴史学方法論の整理と実践。

⑥ 濃密な国際連携。

⑦ 異種専門家の相互乗り入れと相互学習。

3. 研究の方法

本課題の研究は、産業史研究の標準的手法に加え、技術史・商品史・社会史的視点をも加えた学際的視点で行う。産業史の基礎概念と分析枠組みを、産業論と歴史学方法論の双方を踏まえて再検討するために、方法論・認識論についても基礎的な検討を行う。研究代表者・分担者は1つ以上の産業について個別研究を行いつつ、産業間の比較・関係史的分析についても個別的・集团的に検討する。

本課題の特徴は、研究組織のデザインにある。欧州・東アジア産業史の国際比較を、日欧間の研究史・視点の相違を克服して行うために、本研究では、日・欧在住の19名（18大学、10国籍、9言語の話者）[申請時の数字。研究課題着手後に研究組織をいっそう拡大し、北米の研究者も含め30名超が研究に参加した]の研究者が緊密に協力する。日本側メンバーには外国籍研究者を複数含む、また海外研究協力者として欧州各国を代表する経営史・産業史研究者を加えた。本課題での協力は以下3つを柱とする。①日本・東アジア産業史研究者と、欧州産業史研究者の間の、研究対象地域を越えた濃密な協働〔日本国内、日欧間、欧州内で実施。日本の歴史研究では今なお稀な共著論文も重視〕、②ユトレヒト大学の大規模アジア産業史研究〔略称BEAT〕との2プロジェクト間連携、③欧州等の海外研究協力者との個別連携〔地域内・地域間比較の関連づけ〕。

本課題の研究組織は、上記の研究目的の性格や日本での産業研究、経済史・経営史研究が抱える課題〔過度の専門分化や研究者の人口動態に起因する困難等〕を踏まえて、多数の研究「モジュール」の共通のプラットフォームとして機能する。

4. 研究成果

(1) 研究課題全体の成果

本課題は20以上の産業につき競争力動態とその主要な要因を明らかにしているが、産業間比較を踏まえた一般的な結論は、次のように要約しよう。

①適切に定義された産業は固有の動態を有する。単一の一般的・普遍的な理論的枠組みで全産業の競争力動態を説明することはできない。一般化・普遍化はむしろ、個々の産業について、多種の説明原理・理論的枠組みの妥当な組み合わせを一産業の定義と実態に即して、かつ歴史的な構造変化を考慮して時期を限定しつつ一特定するという形でなされねばならない。②上記①のためにも、産業・企業・空間（地域）を分析する際の分

析者の「視点」を明確にすることが必要であり、また「産業」が実体概念ではなく分析概念であることを踏まえた基本的な整理が必要である。技術史・商品史・市場史を踏まえた体系化も必須である。③比較的多くの産業で、20世紀末頃に競争力の構図や決定要因が変化した。その多くは、地球規模の価値連鎖の変化（産業内/産業間の分業/境界の変化と地域間関係の変化）の帰結である。他方、そうした変化を含めても、長期（場合により世紀単位）にわたり特定地域が競争力を維持する例が多数確認された。通説的な産業盛衰の理解は一面的である。

(2) 代表的刊行物

上記の結論や、各産業に関する分析の成果、それに技術移転、価値連鎖、イノベーション等の個別的分析主題に関する成果は、多数の媒体に個別に公表されている（本報告書後半に例示）。よって本課題の成果全体を包摂した刊行物は存在しないが、構成員の成果を比較的広く収録した代表的な刊行物としては、①橋川武郎・黒澤隆文・西村成弘編『グローバル経営史：国境を越える産業ダイナミズム』名古屋大学出版会、2016、および、②Bram Bouwens, Pierre-Yves Donzé and Takafumi Kurosawa (eds.), *Industries and Global Competition: A History of Business Beyond Borders*, Routledge, Forthcoming が挙げられる。双方とも海外研究協力者の執筆項目を含み、他方、本課題の全構成員を包含するわけではないが、以下、その内容をごく簡単に要約する。

①は序章・終章を含め全15章、3部構成からなる。15名の著者のうち8名が代表者・分担者、7名が海外研究協力者である。以下、代表者・分担者の担当章を中心に紹介する。

黒澤隆文/西村成弘「序章 グローバル経営史とは何か」は、グローバル化、競争、産業・企業・地域（空間）分析の基本的視点を確認し、産業史分析の方法を提示した。産業別・地域別に「地域」の位置を確認し、これが有効な地理的概念であることを示した。

黒澤隆文/橋野知子「米欧アジア3大市場と競争力の三つの型 製紙」は、地域市場の中に「資源国型」「消費国型」「日本モデル」と区別しうる3つの統合・立地モデルが存在することを示した。

ピエール=イヴ・ドンゼ「クォーツ革命からファッションへ」は、競争の単位の変化（各国から価値連鎖の組織者間の競合へ）と、競争の形態や競争力の源泉の変化を示した。

藤岡里圭「ファストファッションの台頭と百貨店の岐路 アパレル」は、各国市場を基盤に発展してきた百貨店が、異なるセグメントでのグローバルな価値連鎖の再編に直面し変化を迫られる状況を明らかにした。

李澤建「勃興する新興国市場と民族系メーカー 自動車I」は、需要側要因の重要性に着目し、中国・インド市場で地元メーカーの競争力が大きく異なった原因を解明した。

西村成弘「絶えざる技術開発とグローバル競争優位 重電機器」は、国際的な競争主体が長期的に安定している産業を対象に、技術開発の役割と支援産業の重要性を示した。

中島裕喜「多様な顧客に育まれた競争優位電子部品」は、日本の電子部品メーカーの競争力の長期持続を示した上で、その要因を、多様な顧客との取引と用途の拡大に求めた。

橋川武郎「シェール革命下の2正面作戦 化学」は、グローバル化の下での戦略転換の必要性和、高付加価値路線とボリュームゾーン攻略の二兎を追う戦略の有効性を論証した。

今城徹「中小企業の国際競争力を決定するもの 金融」は、日本・韓国・台湾の中小企業金融の戦後史を比較し、中小企業の活動の地域的な差異が、中小企業金融の活発さや関連の政策の帰結であることを示した。

海外研究協力者らによる第5章（アナスタキス、自動車）、第8章（ストークス、産業ガス）、第10章（プーチ、出版）、第11章（キッピング、生命保険）、第12章（パウエンス/スライタマン、浚渫）は、いずれも日本での研究では死角になりがちな産業・地域をとりあげ、産業競争力の長期持続の要因と「地域」単位の分析の必要性を示した。

②は、序章・終章を含め全14章、3部構成からなる英文学術書である。14名の著者のうち9名が本課題の代表者・分担者、5名が海外研究協力者である。半数の7つの章は上記①の研究成果を英語圏の研究状況に即して改稿したものであるが、残り7つの章は独自の内容である。以下では、後者を中心に紹介する（出版は確定。各章タイトルは仮題）。

Atushi Kondo and Takafumi Kurosawa, *Relocation of a Supporting Industry: Japanese, Taiwanese and Chinese Screw Clusters* は、「支援産業」概念に着目する。同一の産業が地域によって異なった産業連関上の位置に立ち上ること、そうした相違が産業競争力の国際的な動態を左右することを示した。

So Hirano, *Small, Hidden and Competitive: Japanese Chemical Industry since 1990* は、日本の化学産業のうちでも、特に中小規模の電子部材メーカーの競争力の長期持続に着目し、その要因を、技術・市場特性や顧客との共同開発に求めている。

Julia Yongue, *Exploring the Rise of Big Pharma; A French-inspired Model for the Global Vaccine Industry* は、医薬品の中でも公共財的性格を持つ特異な分野であるワクチン産業を取り上げ、フランス企業の歴史的な優位の源泉と日本市場の競争条件を解明した。

Takashi Hirao, *The Advantage of Being a Giant: The Global Cigarette Industry since the 1980s* は、寡占化が著しいタバコ産業につき世界3大メーカーの競争戦略を分析し、多国籍戦略の相違と競争力関係を解明した。

(3) 方法論モジュールでの成果と研究プラットフォームの実現

当初より本課題の構成要素と位置付けた

歴史学（経営史・産業史）方法論の領域では、鳩澤歩と黒澤隆文の両名が一連の国際学会パネルや個別報告を実現し、一部は成果の公刊に至っている。内容的には、経営史・産業史研究における方法論・認識論・主要な課題についての理解における著しい国際的多様性を明らかにし、研究環境の相違が方法論や認識の差異に帰結していること、その相違を踏まえた共通の研究基盤の構築が必要なことを実証し、また産業史の方法論を確立した。

上述のように、本研究は多数の個別モジュールに共通する国際共同研究のプラットフォームを構築することを重要な目標としていたが、これは大きな成果を上げた。現在では、分担者の半ば以上が、研究期間中にそれぞれ国際的な共同研究の組織者としての経験を積み、本研究課題に密接に関連する主題において、派生的研究を進展させている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 132 件）

- ① 橋野 知子 名門企業の形成と『発展』—福井県精練加工からセーレンへ、企業家研究、査読有、13号、2016、掲載確定
- ② 橋野 知子・高槻 泰郎・山本 千映、産地京都の三百年、経営史学、査読有、51巻1号、2016、掲載確定
- ③ Zejian Li, Market Life-cycle and Products Strategies: an Empirical Investigation of Indian Automotive Market、International Journal of Business Innovation and Research、査読有、10(1)、2016、pp.26-41
10.1504/IJBIR.2016.073242
- ④ Ayumu Banzawa, Makiko Hino and Sadato Hiroko、The Development of Western Business History Research in Japan: with Reference to the Simultaneity with Research in Western Countries, Japanese Research in Business History、査読有、32(2015)、2016 pp.11-32
- ⑤ Pierre-Yves Donzé, Global Value Chains and the Lost Competitiveness of the Japanese Watch Industry: An Applied Business History of Seiko Since 1990”, Asia Pacific Business Review、査読有、21(3)、2015、pp. 295-310、10.1080/13602381.2015.1020192
- ⑥ Takahiro Ohata and Takafumi Kurosawa, Policy Transfer and its Limits: Authorized Cartels in Twentieth Century Japan、In Susanna Fellmann and Martin Shanahan (ed.) Regulating Competition、査読有、Routledge, New York、2015 pp.169-190
- ⑦ Pierre-Yves Donzé & Rika Fujioka、European Luxury Big Business and Emerging Asian markets, 1960–2010, Business History、査読有、57(6)、2015、pp.822-840、10.1080/00076791.2014.982104
- ⑧ Zejian LI, Eco-innovation and Firm Growth: Leading Edge of China’s Electric Vehicle Business、International Journal of Automotive Technology and Management、査読有、15(3)、2015、pp.226-243、10.1504/IJATM.2015.070281
- ⑨ Yuki Nakajima, The Allied Forces and the Spread of German Industrial Technology in Postwar Japan, Pierre-Yves Donzé, Shigehiro Nishimura (eds.), *Organizing Global Technology Flows*, 査読有、Routledge、2014、pp.197-212
- ⑩ Takeo Kikkawa, Fifty Years of Business History in Japan: Past Achievements and Future Prospects、Japanese Research in Business History、査読有、Vol.30、pp. 11-29、2014
- ⑪ Pierre-Yves Donzé, Canon Catching up with Germany: The Mass Production of “Japanese Leica” cameras (1933-1970)、Zeitschrift für Unternehmensgeschichte、査読有、59(1)、pp. 27-46、2014
- ⑫ Pierre-Yves Donzé, Les territoires mouvants de la production de montres japonaises : le groupe Seiko au cours du 20e siècle、Entreprises et Histoire、査読有、74、pp. 71-87、2014
- ⑬ ヨング ジュリア、日本の医薬品産業の国際化（1980年～2010年）、薬史学雑誌、査読有、49(1)、pp.77-83、2014
- ⑭ Tomoko Hashino and Takafumi Kurosawa, Beyond Marshallian Agglomeration Economies: The Roles of the Trade Association in a Weaving District in Meiji Japan、Business History Review、査読有、87(3)、2013、pp.489-513、10.1017/S0007680513000731
- ⑮ Pierre-Yves Donzé and Takafumi Kurosawa、Nestlé Coping with Japanese Nationalism: Political Risk and the Strategy of a Foreign Multinational Enterprise in Japan, 1913-1945、Business History、査読有、55(8)、2013、pp.1318-38、10.1080/00076791.2012.745065
- ⑯ Tomoko Hashino and Keiji Otsuka, Hand looms, Power Looms, and Changing production organizations: The case of the Kiryu Weaving District in Early Twentieth-century Japan、The Economic History Review、査読有、66(3)、2013、pp.758-804、10.1111/j.1468-0289.2012.00680.x
- ⑰ Toru Imajoh, Small Business Financing in Japan, from the Prewar to High-Growth Periods: An International Comparison of the Financial History of Small Businesses、The Kyoto Economic Review、査読なし、81(1)、pp. 14-27、2013
- ⑱ 黒澤 隆文、産業固有の時間と空間：産業史の方法・概念・課題と国際比較研究の可

能性、経済論叢（京都大学経済学会）査読なし、185巻3号、pp.1-20, 2012.

- ⑱ Takafumi Kurosawa and Tomoko Hashino、From the Non-European Tradition to a Variation on the Japanese Competitiveness Model: The Modern Japanese Paper Industry Since the 1970s、Lamberg, J.-A. et al. (eds.) The Evolution of Global Paper Industry 1800-2050、Springer、査読有、2012、pp.135-166、10.1007/978-94-007-5431-7_6
- ⑳ Rika Fujioka、The Pressures of Globalization in Retail: The Path of Japanese Department Stores, 1930s-1980s、Umemura, Maki and Rika Fujioka (eds.), Comparative Response to Globalization: Experiences of British and Japanese Enterprises、Palgrave Macmillan、査読有、pp.181-203、2013

〔学会発表〕（計 172 件）

- ① Julia Yongue、Business Models without Borders: French Connections to the Japanese Vaccine Industry、BHC（米国経営史学会）、2016年4月1日、Portland（アメリカ合衆国）
- ② Yuki Nakajima、Beyond the Keiretsu: the Development of the Japanese Electronics Components suppliers”、CARIS Workshop (RIJS Harvard): Industries and Global Competition: Business Beyond Borders in the Historical Perspective、2015年11月5日 Cambridge（アメリカ合衆国）
- ③ So Hirano、Rising of New Chemical Industry in East Asian Region: Gaining and Sustaining Competitive Advantage in Electronic Devices、17th WEHC（世界経済史会議）、2015年8月7日、京都国際会館（京都）
- ④ Tomoko Hashino、Luxury Market and Survival: Japan's Traditional Kimono Weaving Industry after 1950s、17th WEHC（世界経済史会議）、2015年8月7日、京都国際会館（京都）
- ⑤ Shigehiro Nishimura、Technology, Marketing, and Government: Competitiveness of the East Asian Electrical Equipment Industry、17th WEHC（世界経済史会議）、2015年8月7日、京都国際会館（京都）
- ⑥ Takafumi Kurosawa、Who are We? History and Identity of Business History Societies、BHC/EBHA（米・欧経営史学会合同大会）、2015年6月26日、Miami（アメリカ合衆国）
- ⑦ Takeo Kikkawa、Akira Itagaki and Yumiko Itagaki、Inequality among Industries and Companies: Comparative Business Activities to Mitigate Climate Change in Japanese Consumer Industries、BHC / EBHA（米・欧経営史学会合同大会）、2015年6月25日、Miami（アメリカ合衆国）
- ⑧ Takashi Hirao、Achieving Competitive Advantage of Multinational Enterprise: A Comparative and Historical Study of Japan Tobacco Inc.、Asia-Pacific Economic and Business History Conference、2015年2月14日、Canberra（オーストラリア）
- ⑨ Julia Yongue、Regional Integration and Red Tape: The Expansion of the French Vaccine Industry in Japan”、31st Euro-Asian Management Studies Association (EAMSA)、Thammasat Business School、2014年10月30日、Bangkok（タイ）
- ⑩ 中島 裕喜、電子部品産業の国際展開：受動部品の事例、経営史学会第50回全国大会 パネルディスカッション『産業のグローバル化と「地域」—方法論とアプローチ』組織兼報告者、2014年09月13日、文京学院大学（東京）
- ⑪ Ayumu Banzawa、Development of Western Business History Research in Japan- with Reference to the Simultaneity of Researches in Western Countries、経営史学会第50回全国大会、2014年9月12日、文京学院大学（東京）
- ⑫ 藤岡 里圭、ファッションのグローバル化と百貨店アパレル、経営史学会第50回全国大会、2014年09月13日、文京学院大学（東京）
- ⑬ 西村 成弘、東アジア重電産業の競争優位：インフラ・ビジネスのグローバル経営史、経営史学会第50回全国大会、2014年09月13日、文京学院大学（東京）
- ⑭ Pierre-Yves Donzé、Brand Globalization and the Comeback of the Swiss Watch Industry on the World Market, 1980-2010、XI Congreso Internacional de la AEHE、2014年9月5日、Madrid（スペイン）
- ⑮ Takahiro Ohata and Takafumi Kurosawa、Cartel Registration in Post-war Japan、EBHA（欧州経営史学会）、2014年8月22日、Utrecht（オランダ）
- ⑯ So Hirano、Life cycle analysis: The case of the chemical industry、EBHA（欧州経営史学会）、2014年8月23日、Utrecht（オランダ）
- ⑰ Takeo Kikkawa、Historical Overview: Japan's Challenge to the Cool Earth、EBHA（欧州経営史学会）、2014年8月23日、Utrecht（オランダ）
- ⑱ Zejian Li、Raison d'etre and Potential Impacts: Leading Edge of the EV Business in China、22nd International Colloquium GERPISA、2014年6月5日、京都大学（京都）
- ⑲ Toru Imajoh、The Development of Small Finance in East Asian Countries: Experiences of South Korea and Japan 1960-1990、第31回経営史国際会議（富士コンファレンス、2013年9月14日、京都大学（日本）

- ⑳ Toru Imajoh, Small Business Financing in Japan from the Prewar Period to the High-Growth Period: An International Comparison of the Financial History of Small Businesses, EBHA/BHSJ (欧・日経営史学会) 合同大会、2012年9月1日, Paris (フランス)
- 21 Rika Fujioka, Expanding the Luxury Market in Japan: Department Stores' Contribution to the Increase in Sales of Luxury European Brands, EBHA/BHSJ (欧・日経営史学会) 合同大会、2012年9月1日, Paris (フランス)
- 22 Ayumu Banzawa, What Caused the Failure of Nationalisation of the Railway System in Germany? Malfunctions of the German Imperial Railway Office (Reichseisenbahnamt) in the 1870s and 1880s, EBHA/BHSJ (欧・日経営史学会) 合同大会、2012年8月31日, Paris (フランス)

[図書] (計 22 件)

- ① Bram Bouwens, Takafumi Kurosawa and Pierre-Yves Donzé (eds.), *Industries and Global Competition: A History of Business Beyond Borders*. Routledge International Studies in Business History, Routledge [Forthcoming]
- ② 橘川 武郎/黒澤 隆文/西村 成弘編、グローバル経営史—国境を越える産業ダイナミズム、名古屋大学出版会、2016年
- ③ 橘川 武郎、応用経営史、文眞堂、2016年
- ④ 橘川 武郎、産業経営史シリーズ7 エネルギー産業、日本経営史研究所、2015年
- ⑤ Pierre-Yves Donzé and Shigehiro Nishimura (eds.), *Organizing Global Technology Flows: Institutions, Actors, Processes*, New York: Routledge, 2014
- ⑥ 橘川 武郎・平野 創・板垣 暁 [編]、日本の産業と企業 発展のダイナミズムをとらえる、有斐閣、2014年
- ⑦ Pierre-Yves Donzé, *A Business History of the Swatch Group: The Rebirth of Swiss Watchmaking and the Globalization of the Luxury Industry*, Plagrave Macmillan, 2014
- ⑧ Maki Umemura and Rika Fujioka (eds.), *Comparative Responses to Globalization: Experiences of British and Japanese Enterprises*, Palgrave Macmillan, 2013

[その他]

ホームページ等

<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~kurosawa/caris/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

黒澤 隆文 (KUROSAWA, Takafumi)
京都大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号： 30294507

(2) 研究分担者

橘川 武郎 (KIKKAWA, Takeo)
東京理科大学・大学院イノベーション研究科・教授
研究者番号： 20161507

ピエール・イヴ ドンゼ,
(Donzé, Pierre-Yves)
大阪大学・大学院経済学研究科・准教授
研究者番号： 20635718

西村 成弘 (NISHIMURA, Shigehiro)
関西大学・商学部・教授
研究者番号： 70511723

橋野 知子 (HASHINO, Tomoko)
神戸大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号： 30305411

藤岡 里圭 (FUJIOKA, Rika)
関西大学・商学部・教授
研究者番号： 00326480

中島 裕喜 (NAKAJIMA, Yuki)
南山大学・経営学部・准教授
研究者番号： 50314349

ばん澤 歩 (BANZAWA, Ayumu)
大阪大学・経済学研究科・教授
研究者番号： 90238238

ジュリア ヨング (YONGUE, Julia)
法政大学・経済学部・教授
研究者番号： 90328097

今城 徹 (IMAJO, Toru)
阪南大学・経済学部・准教授
研究者番号： 20453988

平尾 毅 (HIRAO, Takashi)
諏訪東京理科大学・経営情報学部・准教授
研究者番号： 50361861

李 澤建 (LI, Zejian)
大阪産業大学・経済学部・准教授
研究者番号： 40570495

平野 創 (HIRANO, So)
成城大学・経済学部・准教授
研究者番号： 30508601

(3) 連携研究者

該当なし